



大杖 正彦 議員

# 地域おこし協力隊員への期待は？

町長

## 地域活動の支援、発展に



地域おこし協力隊の2人

【大杖】深刻化する人口減少・少子高齢化という大問題に対し、本町ではさまざまな施策を講じている。その中で若い人の田舎暮らしを促すためには、「里山」がキーワードと考える。

今年度から始まった地域おこし協力隊員に、町はどのような期待をしているか。

【町長】「里山」は大切な資本であり、日本

社会が抱える地方の過疎化・少子高齢化を克服する可能性を秘めている。本町の豊かな自然や資源が活用できると考える。

地域おこし協力隊員には、NPO設立や起業をし、地域課題を解決する受け皿とってもらう。地域コミュニティや集落・地域活動の支援、発展につなげていきたい。

# 児童・生徒の体力は？

教育委員長

## 平均を上回っている

【大杖】この10年、体力テストの結果は全国的に下がっている。昔は徒歩通学があたり前だったが、交通手段の発達により運動不足が深刻である。

本町では小・中学校生の体力は、全国や鳥取県と比べどうなっているか。

【教育委員長】体力テストでは、小5男子はやや低く、小5女子と中2男女は平均より高くなっている。

【大杖】体力向上対策はどう考えているか。

【教育委員長】県内では幼少期の運動不足による、バランス感覚や柔軟性・器用さに欠け

る子どもが増えている。

保育所でリズム運動や運動遊びなど積極的に取り入れている。

【大杖】個人の特性や潜在能力の発掘・育成

を促すために、スポーツ少年団の普及についてどう考えるか。

【教育委員長】一生懸命やる意欲のある人には、応援していく。



中山小マラソン大会